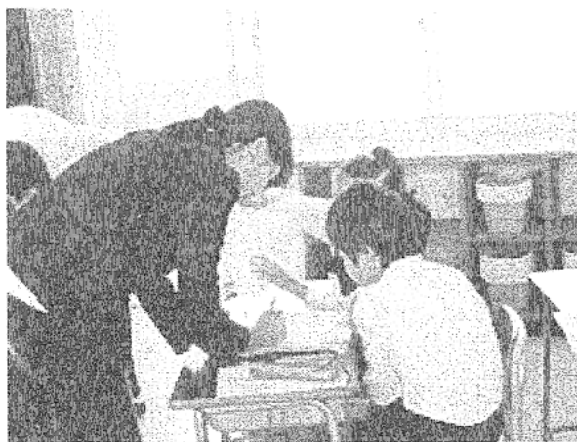
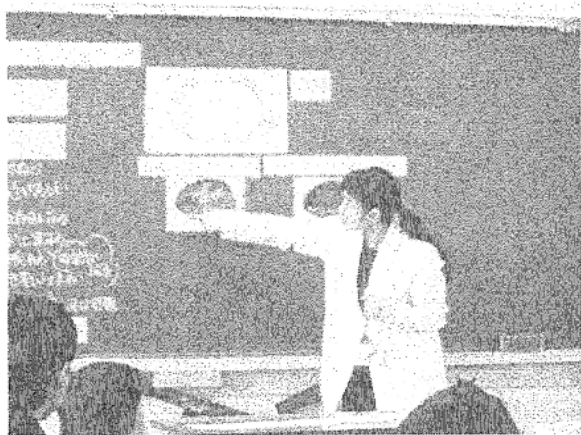


初任者研修の授業実践



10月28日（火）2校時 指導者 定金 歩美

- 1 単元名 読んで感じたことを話し合おう 「ごんぎつね」
- 2 単元目標 (1)場面の移り変わりに注意しながら、ごんの性格や気持ちの変化、情景などについて、
 叙述をもとに想像して読むことができる。
 (2)文章を読んでごんの性格や気持ちの変化について考えたことを話し合い、互いの考え
 の共通点や相違点を比べることで、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。

3 指導計画（全10時間）

第一次 全文を読んであらすじをつかみ、学習の見通しをもつことができる。（2時間）

第1時 全文を読み、登場人物やあらすじをつかみながら初発の感想を書く。

第2時 初発の感想を交流し合い、読みの視点をもつ。

第二次 場面ごとに、ごんの気持ちや様子を読み取ることができる。（6時間）

第1時 場面設定や行動描写から、ごんがどんなぎつねかを読み取る。

第2時 兵十に対するごんのいたずらぶりを読み取る。

第3時 兵十のおっかあの葬列を見るごんの様子や気持ちを読み取る。

第4時 兵十につぐないをするごんの様子や気持ちを読み取る。（本時）

第5時 ひたむきな気持ちが兵十に通じないごんのやるせなさやもどかしさを読み取る。

第6時 ごんの死と、ごんと兵十の心のふれ合いを読み取る。

第三次 「ごんぎつね」の結末について感想を書き、感じたことを話し合う。（2時間）

4 指導上の立場

(1) 教材観

ひとりぼっちの子ぎつねごんは、村で何度もいたずらを繰り返していた。そんなある日、いつものようにちょっとしたいたずら心でしたことで、思いがけず兵十のおっかあへの思いを台無しにしてしまったと深く後悔したごんは、母を失いひとりぼっちになった兵十に自分自身の境遇を重ねて同情を寄せる。ごんは、償いの気持ちをこめてくりや松たけを届け続けたが、そのいじらしい思いは死を前にしてしか兵十に通じることはなかった。

この物語を読み進めるうちに児童は、ごんにいつしか共感し、償いに込められたごん的心情やその変化、ごんと兵十の心のすれちがいやごんの死という結末などについて、想像をふくらませ多様な読み味わいをする事が予想される。

そのような児童の多様な読みを大切にしながら話し合う活動の中で、根拠とした叙述をふまえながら自分の感想や考えを述べたり、友達の考えと比べて自分の考えを見つめ直し、作品に対する理解を深めたりするのに適した題材であると考えられる。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子7名、女子8名、計15名）は、物語文の会話や行動から人物の人柄や心情を想像する学習を重ねている。「一つの花」では、初めの感想から「愛情」をキーワードとして読みのめあてをたて、心が動いたところを自由に書き込みながら自分の読みをもたせた上で、読み広げ・読み深めをさせる「おもしろみつけ」による学習を行った。初めは戸惑いもあったが慣れるにつれ、書くことに苦手意識のある児童も含め、書き込みに意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、読み広げや読み深めの場面では、「間違っていたら恥ずかしい」「考えをうまく表現できない」など、自分の考えに自信がもてずに発表をためらう児童が多かった。そのため、全体での話し合い活動が活発になりにくく、作品を読み深めることが難しかった。そこで、多様な読み味わいのできる「ごんぎつね」を通し、おもしろみつけをもとに友だちと考えを交流する機会を設けることで、互いの考えの共通点や相違点を比べ、それぞれが考えを見つめ直しながら物語を読み深めていく力を身につけさせたい。

(3) 指導観

本学級の実態を考慮し、「ごんぎつね」でも、全員が発表できるようにだれもが書き込めるおもしろみつけの手法を継続することで、書き込み発表で読み広げていくことにした。読み広げの活動では、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、友だちの考えを書き足したり、少人数で意見を交流したりすることで、自信をもって全体の場で発表することができるようにしたい。さらに、話し合い活動を通して自分に似た考えを聞くことで、自分の言葉で表すことが苦手な児童も、どのように表現したらよいのか気づくことができるようにしたい。また、読み深めの活動では、全体の場で交流し合うことで、多様な感じ方があることや、友だちの考えから、一人では気づかなかった発見があることに気づかせたい。授業の最後には、読み取ったことをもとにし、登場人物の行動から気持ちを捉えることで、場面の移り変わりに即した物語の中での登場人物の気持ちの変化について読み深めていきたい。

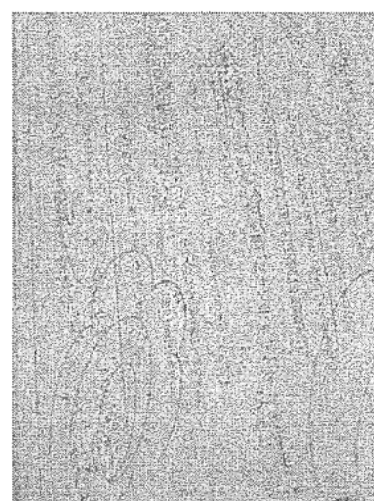
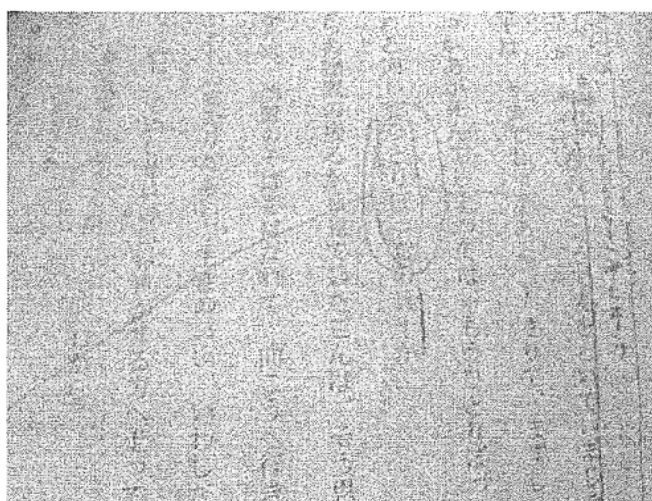
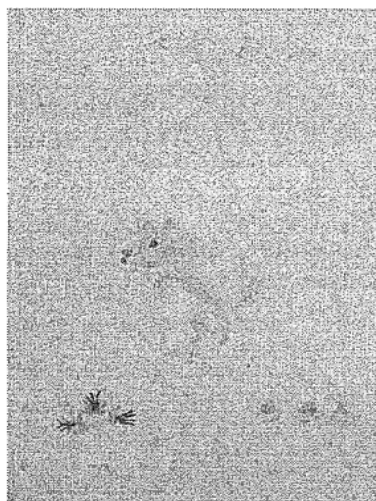
5 本時案（第二次 第4時）

目標	ごんの行動や心内語から、ごんの兵十への気持ちの変化を想像して読むことができる。	
学習の活動	教師の支援	評価
1 前時までの学習をふり 返り、本時のめあてを つかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で読み深めをしたときに使ったキーワードを振り 返り、いたずらばかりしていたごんの変化を想 起することができるようにする。 ○音読後、本時の場面で見つかりそうなおもしろさをキー ワードの形で発表させることで、読みのめあてをつかむ ことができるようにする。 	
「つぐないたい」や「かわいそう」などを見つけよう。		
2 自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○本文のワークシートから、「つぐないたい」や「かわい そう」などのキーワードを手がかりに、心が動いたとこ ろを自由に見つけることで、自分の考えをもちやすくす る。 ○考えをもったところにサイドラインを引いたり、引いた 理由も書き込んだりすることで、根拠と一緒に発表する ことができるようにする。 ○机間指導により、児童の反応の傾向をつかみ、助言や称 揚をすることで、全員が必ず自分の考えをもつことが できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・考えをもちにくい児童には、書きやすい文を選んで注 目させ、キーワードが見つかりそうか聞いたり、どのよ うに感じたのか選択肢を出して聞いたりすることで、考 えをもちやすくする。 ・考えをもつことができている児童には、サイドライン を引いた理由を聞くことで、ワークシートに理由も書く ことができるようにする。 	○ごんの行動や心内 語から、ごんが兵十 に寄せる気持ちを見 つけることができる。 (ワークシート・ 発言)
3 もった考えを話し合 う。 (読み広げ) (読み深め)	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで考えを伝え合い、書き足す活動をするこ とで、自信をもって全体の場での発表することができるよ うにする。 ○どんなところに線を引いたか、理由とともに発表させ、 児童の発表を板書に位置づけることで、全員で確認しな がら次の読み深めにつなげることができるようにする。 ○いたずらばかりしていたごんが、「なぜ繰り返し償いを しに行くのか」「相手が兵十でなくても償いに行ったの か」と問いかけることで、ごんと兵十の境遇に着目し、 自分と同じひとりぼっちになった兵十に深く心を寄せ ていることに気づくことができるようにする。 ○「投げ込んで」「そっと」「置いて」などの表現や、「次 の日も、その次の日も」の繰り返しの表現、また、償い 物の変化に着目することで、ごんの兵十への気持ちの変 化に気づくことができるようにする。 	○ごんの兵十を思う 気持ちに変化してい ることに気づくこと ができる。(発言・ワ ークシート)
4 本時のまとめをする。	○ごんがどのよう に気持ちを変化した のかを、理由もつけ て自分の言葉で書く ことで、本時のまと めとする。	

成果と課題

【成果】

- ・全員が発表できるようにだれもが書き込めるおもしろみつけの手法を継続することで、書き込み発表でたくさんの児童が発言できた。
- ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、友だちの考えを書き足したり、少人数で意見を交流したりすることで、自信をもって全体の場で発表できた。
- ・毎回のワークシートを貼り付けるごんぎつねブックを作ること、ごんの気持ちや行動の変化など、前時までの学習をすぐにふり返ることができた。
- ・机間巡視で児童の考えを把握し、意図的に指名することで、読み広げでは児童の考えをつなげることができた。
- ・前の文とつなげて読んでいる児童や、短い言葉に注目して気持ちを読み取っている児童を称揚し、取り上げることで、次時での本文の読み取り方につなげることができた。
- ・授業の最後には、「なぜなら」を必ず用いてごんの気持ちの変化をまとめさせることで、叙述を根拠にしたまとめをすることができた。



【課題】

- ・教科書ではなく、ごんぎつねブックを使って音読をすれば、これまでの学習の軌跡を振り返りながら、本時の学習に入ることができた。
- ・同じところにサイドラインを引いていても、違う言葉でいろいろな自分に語らせれば、児童のたくさんの考えに触れることができた。
- ・教師が話しすぎてしまったので、児童から考えを引き出せるような補助発問の工夫をしたい。
- ・ごんの言動や行動に注目している児童を取り上げて発問をすることで、ごんの気持ちがなぜ変化したのか、叙述をもとにより深めることができた。
- ・ごんの変化に注目している児童の考えを大切に、毎時間全体の場でしっかりと押さえることで、最後の、心のすれちがいの読み取りにつなげることができた。
- ・机間巡視の時、後で取り上げたい考えには、他の児童にも聞こえるように称揚することで、その児童や同じことを書いている他の児童への自信もつけることができた。

1 題材名 メディアと健康

- 2 目標 （1）過剰なメディア接触が与える影響について、理解することができる。
（2）メディア接触を中心に、自らの生活を振り返り、改善しようとするすることができる。

3 指導計画

- 事前 … 生活チャレンジカード・生活習慣改善カード（夏休み）・保健だより・メディアアンケート
本時 … メディアと健康
事後 … 生活チャレンジカード

4 児童の実態

(1) 生活チャレンジカードから

12月1日（月）～9日（火）の9日間で実施した生活チャレンジカードの結果、回答者24人（男子14人、女子10人）のうち、目標時間の分布については、2時間以内が約29％、2～4時間が約46％、4～6時間が約13％、6時間以上は約13％であった。目標達成度については、ノーメディアデー以外の8日間で8日が約21％、4～7日が約63％、0～3日が約17％であった。

12月4日（木）のノーメディアデーの達成度は約8％（2人）であった。

	8日	4～7日	0～3日
2時間以内	1人	5人	1人
2～4時間	3人	7人	1人
4～6時間	1人	1人	1人
6時間以上	0人	2人	1人

(2) メディアアンケートから

事前に実施したメディアアンケート（特定の日ではなく、平日どの程度メディアを利用しているかについて調査）の結果、回答者26人（男子17人、女子9人）のうち、利用時間2時間以内の児童が約8％、2～4時間の児童が約23％、4～6時間の児童が約23％、6時間以上の児童が約46％であった。

	テレビ	ゲーム	メディア合計
毎日はしない	0人	5人	0人
0～30分	2人	3人	1人
30分～1時間	1人	6人	0人
1～2時間	5人	6人	1人
2～3時間	6人	2人	2人
3～4時間	4人	1人	4人
4～5時間	7人	0人	5人
5～6時間	0人	1人	1人
6時間以上	1人	2人	12人

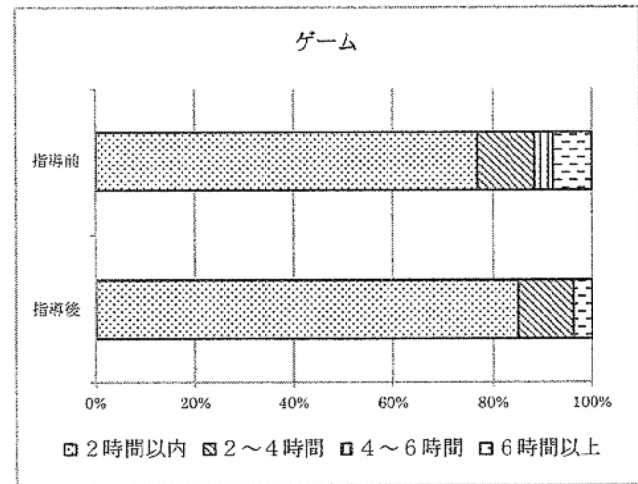
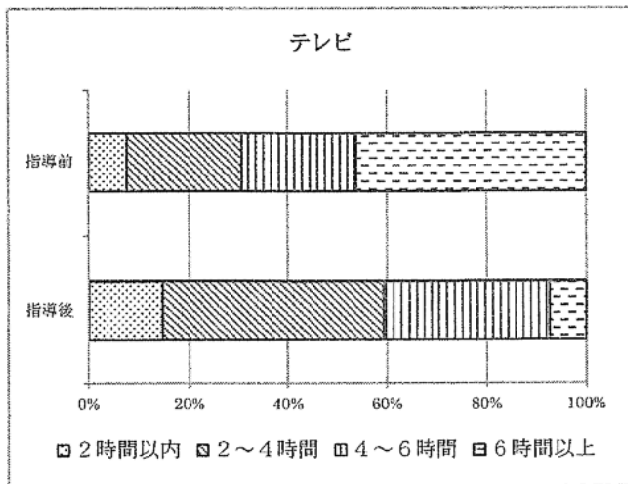
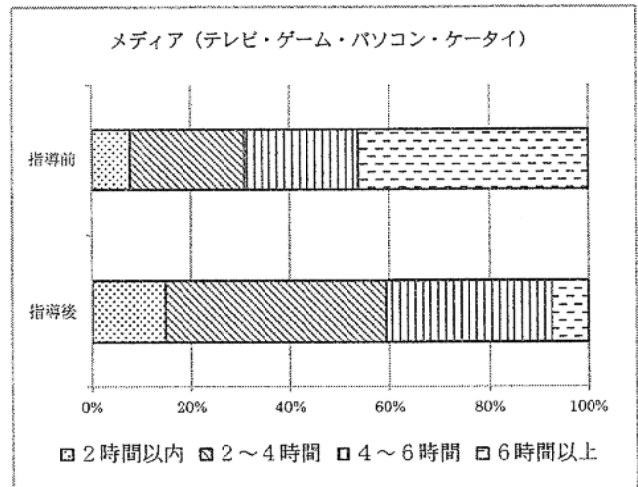
目標	過剰なメディア接触が健康に与える影響について理解し、自らの生活を見直すことができる。																
学習活動	教師の支援				評価												
1 本時のめあてをつかむ。	<p>○生活チャレンジ週間やノーメディアデーの取り組み、事前に行ったメディアアンケートの結果などを用いて、自分たちの生活の実態を知らせることで、メディア接触状況について振り返ることができるようにする。</p> <p>○生活時間例を視覚的に表し、メディア接触時間の長さによって1日の生活に大きな違いができることに気づかせ、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p>																
1日の生活とメディアの利用時間について考えよう																	
2 過剰なメディア接触が与える影響について知る。	<p>○メディア接触時間が長いと、どんな影響がでるか考えさせることで、メディアと健康の関係の深さに気づくことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・目が悪くなる ・寝る時間が遅くなる ・肩が疲れる ・気分が悪くなる ・運動しなくなる <p style="text-align: right;">等</p> </div> <p>●テレビなどのモニター画面を長く見続けることで起こる毛様の機能低下について、図を用いながら説明し、メディア接触が目に与える影響について理解できるようにする。</p> <p>●脳の写真を用いて、運動時とゲーム時の脳（特に前頭前野）の働きの違いについて説明することで、メディア接触が脳に与える影響について理解できるようにする。</p>				○過剰なメディアが与える影響について考え、理解することができる。（発言・ワークシート）												
3 メディアとの付き合い方について考える。	<p>○生活時間の見直しを行い、グループ内で発表し合うことで、その後の全体での発表を、自信をもってできるようにする。</p> <p>○生活時間の見直し方について、さまざまな意見をきくことで、より有意義な時間の使い方について考えることができるようにする。</p> <table border="1" data-bbox="402 1825 1187 1926" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>宿題</td> <td>ゲーム</td> <td>夕飯</td> <td>テレビ</td> <td>ケータイ</td> <td>睡眠</td> </tr> <tr> <td>70分</td> <td>90分</td> <td>30分</td> <td>60分</td> <td>60分</td> <td>7時間</td> </tr> </table> <p>○今後自分が、メディアとどのように付き合いしていくか考え、ワークシートに書かせることで、本時のまとめを行う。</p>				宿題	ゲーム	夕飯	テレビ	ケータイ	睡眠	70分	90分	30分	60分	60分	7時間	○メディア接触を中心に、自らの生活を振り返り、改善しようとすることができる。（発言・ワークシート）
宿題	ゲーム	夕飯	テレビ	ケータイ	睡眠												
70分	90分	30分	60分	60分	7時間												

成果と課題

○成果

保健指導前と指導後に、テレビ・ゲーム・パソコン・ケータイ・メディア合計（上記4つ）の各項目について、平日どの程度利用しているかアンケートを行ったところ、以下のグラフのような結果がみられた。

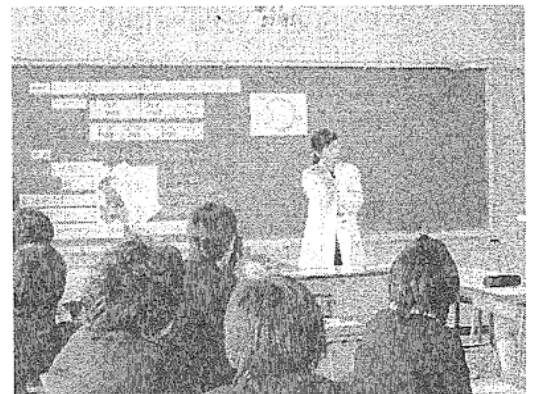
どの項目においても利用時間が短くなっており、意識の変化がみられた。メディア合計利用時間が6時間以上の児童が、指導前約46%いたが、指導後約7%まで減少した。



●課題

テレビの利用時間について、指導前に比べると短くなったものの、依然として長い傾向にあるといえる。各家庭のメディアに関するルールは、ゲームやケータイの利用時間についてのものが多い。児童だけでなく大人にとっても身近なテレビは、生活の中から切り離せないものであるが、その点もふまえながら、メディアとの関わり方を児童に考えさせていきたい。

よりよい生活習慣を身につけさせるための生活チャレンジ週間の取組については、引き続き全校毎学期行い、意識の定着をはかりたい。メディアに関する保健指導については、6年生以外の学年でも計画的に行うようにする。また、メディア指導の実践をより広く家庭に知らせていくことで、連携をはかることができるようにしたい。



評価規準 3年生

	他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田学区の農家の様子や農作物に興味をもって見学することができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、友だちと話し合うことができる。	○「三藤のお宝は何か？」について、自分の考えをもつことができる。	○学区の農家について調べたことについて、発表することができる。
つかむ	○レンコン農家の見学を通して、不思議に思ったことや興味があることを見つけていくことができる。	○レンコン農家の見学で、質問をしたり感想を言ったりすることができる。	○いちご農家や玉ねぎ農家の見学の経験を生かして、レンコン農家について調べたいことを考えることができる。	○学区の農家について進んで調べることができる。
追求する	○レンコン農家の学習を通して、農家の方が今まで苦労や工夫してきたことや、レンコン作りに対する思いに気づくことができる。	○学区のレンコン農家について学んだことをもとに、さらに学習を深めるための質問をすることができる。	○レンコン農家の学習で調べたことを、新聞にまとめることができる。	○自分なりの課題をもって、2回目の取材をすることができる。
活かす	○藤田で作られている農作物や、藤田のために努力を続けている人たちが藤田の宝物であることに気づくことができる。	○今までの活動を整理して、わかりやすく発表することができる。	○今までの活動を振り返り、農家やJA女性部の方々が何を大切にしているかを考えることができる。	○自分たちが見つけた「三藤のお宝」について、広めることができる。

評価規準 4年生

	他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力
ふれる	○藤田は自然や人にやさしいまちなのか、身の回りにはどんな課題について考えることができる。	○身の回りにはどんな様々な課題について友だちや家族と話し合うことができる。	○どんなまちがやさしいまちなのか具体的に考えをもつことができる。	○身の回りにはどんな様々な課題について、インタビューや取材をすることができる。
つかむ	○調査活動や体験活動、インタビューなど自分のまわりの人や地域の自然環境に進んでかかわることができる。	○調査活動や体験活動の中で意見や感想を言ったり、質問したりすることができる。	○調査活動や体験活動を通して、やさしいまちづくりのための課題を見つたり、解決方法を考えることができる。	○調査活動や体験活動に進んで取り組むことができる。
追求する	○調査活動や体験活動を通して、自分だけでなく周りのことを考え、各家庭で実践することができる。	○今までの調査活動や体験活動をもとに自分たちができる活動を考え、友だちの意見との共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。	○様々な調査活動や体験活動を通して、環境や福祉の課題とその解決方法を考えることができる。	○自分なりの解決方法を計画、実践することができる。
活かす	○自分たちができる活動をする中で身近な環境や高齢者に進んでかかわることができる。	○今までの活動を振り返り、整理し、新聞等にまとめ発表することができる。	○自分たちの生活を見直し、自分たちができることを考えることができる。	○やさしいまちづくりのために、地域への啓発活動や学校や家庭でできることを実践できる。

評価規準 5年生

		他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力	
ふれる	○地域の方に手順や注意点を教わりながら、実際にのみまきをすることができる。	○「藤田に米作りが必要か？」について、友達と話し合うことができる。	○「藤田に米作りが必要か？」について、友達と話し合うことができる。	○「藤田に米作りが必要か？」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○「藤田の米作り」についてあまり知らない自分に気づくことができる。
つかむ	○農家の方への取材を通して、藤田の農家の方が考える「農業の楽しさ」や「農業の問題点」に気づくことができる。	○藤田の米作りの「よい点」と「問題点」について、質問したり自分の考えを話したりすることができる。	○農家の方のお話や苗作りの体験から、「20年後の藤田の米作りがどうなるとよいか」についての提案を考えられることができる。	○農家の方の「よい点」と「問題点」について、質問したり自分の考えを話したりすることができる。	○藤田の米作りを持続・発展させるためにはどうすればいいかを考えることができる。
追求する	○バケツ稲による体験やフィールドワークでの取材を通して、提案書を作成する上で必要なことを調べるることができる。 ○バケツ稲や学校田での米作りに取り組むことができる。	○フィールドワークなどで、自分の調べたい内容について、質問することができる。	○自分の調べたい提案に沿って、調べる内容や方法を考えたり選んだりして調べることができる。 ○取材や実験などを通して調べた事実を整理・分析して、それを元に自分の考えを提案書にまとめることができる。	○フィールドワークなどで教わったことを、学校田やバケツ稲の栽培で活かすことができる。	
活かす	○日本の農業問題が、今の自分の生活とつながっていることに気づくことができる。	○自分の提案について、資料を提示しながら相手にわかりやすく発表することができる。 ○「20年後の藤田の米作りが持続するための方法」について、提案書をもとに農業後継者クラブの人と意見交換することができる。	○提案を見直す活動や後継者クラブの方との意見交換を通して、農家の方が何を大切にしているのかを考えられることができる。	○20年後の藤田の米作りを持続するために、今の自分にできることを考えて実践したり、自分の生活を振り返ったりすることができる。	

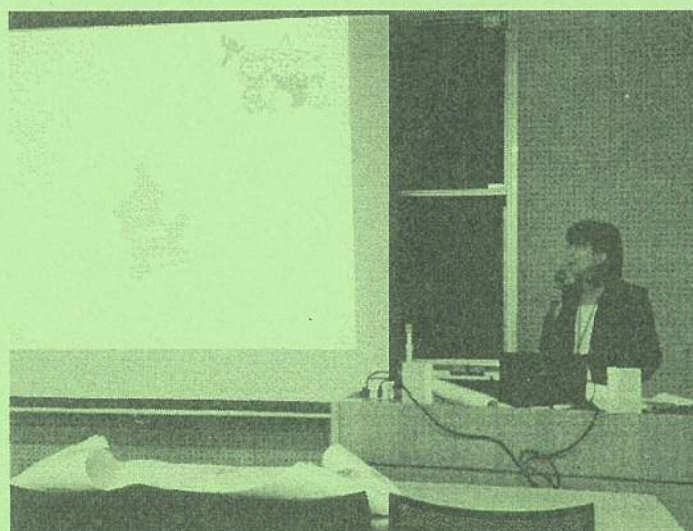
評価規準 6年生

		他者とのかかわり		自分とのかかわり	
	かかわる力	コミュニケーション力	課題解決力	実践力	
ふれる	○ハートオブゴールドの方から話を聞き、世界の子どもたちの諸問題について知ることができる。	○「幸せ」について、友だちと話し合うことができる。	○「幸せ」についての自分の考えとその理由をもつことができる。	○現在の生活は、世界の中では当たり前ではないということに気づくことができる。	
つかむ	○NCCCの子どもたちの気持ちを理解して積極的に関わることができる。 ○1回目の支援活動に積極的に取り組むことができる。	○NCCCの子どもたちと互いに自分の思いを伝えたり質問したりする。	○ハートオブゴールドの活動を聞き、自分にできることは何か考えられることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。	
追求する	○2回目の支援活動に積極的に取り組むことができる。	○お互いの活動の「よいところ」や「難しいところ」について話し合うことができる。 ○自分が考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかNCC事務局の方に質問することができる。	○1回目の支援活動の振り返りやカンボジアの現状をもとに、「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動」を考えられることができる。	○まわりに働きかけながら、カンボジア支援活動を実践することができる。	
活かす	○自分たちが行ってきた活動を通して、社会への関心を広げることができる。	○これまで学習してきたとき、資料を提示しながら活動の報告をすることができる。	○これまでの学習を振り返り、「幸せ」についての考えをもち、これからの自分のできることを考えることができる。	○2回の支援活動やカンボジアとの交流を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考え、これからの生活に活かすことができる。	

ESDに関するユネスコ世界会議 サイドイベント発表の記録



ユネスコスクール全国大会 テーマ別交流会発表の記録



東京海上火災海上保険株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社

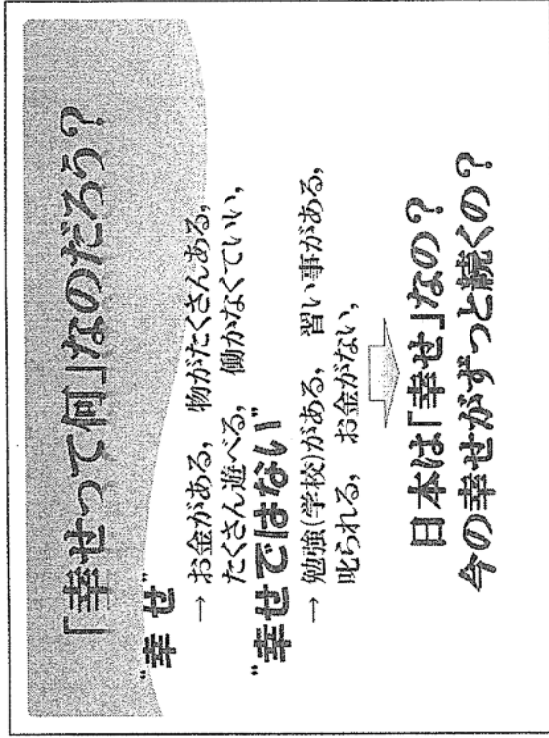
東京海上火災海上保險株式會社

東京海上火災海上保險株式會社





こんにちは。第三藤田小学校の6年生です。
これから、私たちが「総合的な学習の時間」で取り組んだ「幸せって何？」について
発表します。



みなさん、「幸せって何」だと思いますか。
お金がたくさんあることでしょうか？
物がたくさんあることでしょうか？たしかに、日本には物があふれていて、お金もた
くさんあるように思えます。
では、それなら日本は「幸せ」なのでしょうが。
そして、このままずっと今の幸せが続いていくのでしょうか。

「いろいろな国の現状を知り、
その問題について考えてみよう。」

～世界がもし100人の村だったら～

私たちが当たり前と考える生活
私たちが当たり前と感じていること

世界的にはかなり違っている
実際にはとても慮まれている

世界の人は何かを感ずるのか？
何とかしていきたい!!

私たちは、6年生の総合的な学習の時間で、「幸せって何？」というテーマで学習をしています。
そこで、まず始めに「世界がもし100人の村だったら」のビデオを見ました。
私たちの多くが考えているあまりまえの普段の生活が、本当は世界的にはかなり違っているということがわかりました。
そして、自分たちが当たり前と感じていることが、実際にはとても恵まれていることに気づきました。
また一方で、「他の国の人には何かできないだろうか」「何とかしていきたい」という思いをもつようになりました。
そこで私たちは、いろいろな国の現状を調べ、その問題について考えてみることにしました。

「いろいろな国の現状を知り、
その問題について考えてみよう。」

◇学校に行きたくてもいけない子ども
◇ゴミ捨て場で生活する人たち
◇悪魔の兵器 地雷

いろいろな国の現状を知る

◎学校に行けない人たちに何かできることがあったらしてみたい!
◎今困っている人たちのために何かできるだろうか？

その問題について考えてみる

行動力は確実に未来につながる!
～見たり考えたりするだけでなく、実際に行動することの大切さ～

まず私たちは、「世界には学校に行きたくても行けない子どもがたくさんいることを知りました。
また、「ゴミ捨て場で生活する人たち」がいることも知りました。
そして、「悪魔の兵器」と言われる地雷が世界中に埋められたままになっていることも知りました。
私たちは、いろいろな国の現状を知り、その問題について考えていく中で、「学校に通えることに感謝をする」「恵まれた生活に感謝する」「争いのない世界をずっと未来にまで続けていきたい」と思うようになりました。
また、世界中の子どもたちも学校に行けるようになってほしい」「お金や食料に困ることがなくなっほしい」と思うようになりました。
さらに、「学校に行けない人たちに何かできることがあったらしてみたい」「今困っている人のために何かできるだろうか」などの考えももつようになりました。
そして、そのような願いに対して、解決に向けて取り組んでいる人たちの活動を見て、「行動力は確実に未来へつながる」ことを知り、見たり考えたりするだけでなく、実際に行動することの大切さも実感しました。

「ハートオブゴールドの方のお話」

NPO法人ハートオブゴールド
・アンゴロワット国際ハーブマラソン
・体育指導要領作成 ・日本語教育
・ニューチャイルドケアセンター (NCCC)



「ハートオブゴールド」の方のお話

- ☆国際協力とは分かち合い、一誰にでもできる！
- ☆カンボジアの子どもたちは勉強が大好き
- ☆人の役に立ったとき嬉しい気持ちになれる
- ☆自分のことを褒めてあげたくなるような経験を
- 日本とカンボジアの異なる現状 → 想像以上に大変



5月にハートオブゴールド(※以下HG)の事務局長さんが、ゲストティーチャーとして第三藤田小学校に来てくださいました。

- ・国際協力とは分かち合い、自分の持っているものや抱いた気持ちを分け合うこと。だから誰にでもできる。
 - ・カンボジアの子どもたちは勉強が大好きで勉強に必死！なぜなら生活や将来に直結するから。
 - ・誰でもみんな人の役に立ったときうれしい気持ちになれる。
 - ・自分のことを褒めてあげたくなるような経験をしよう！
 - ・など、いきいきと情熱的にお話をしてくださいました。
- 私たちは、日本とカンボジアの異なる現状を教えてもらい、想像している以上にカンボジアが大変なことを知りました。
- そして、支援活動の大切さをあらためて感じました。
そこで、「カンボジアの人の役に立ちたい」と思いました。
また、「カンボジアの人をもっと知り、仲良くやりたい」とも思うようになりました。

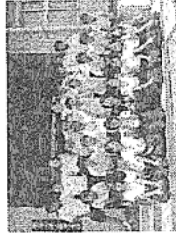
「有森裕子さんの講演」

有森裕子さん
・オリンピック女子マラソン銀メダル獲得
・アトランタオリンピック女子マラソン銅メダル獲得
・NPO法人ハートオブゴールド代表理事



☆夢や目標はかなうと信じれば絶対実現できる！

- ◇たくさんの国や人々とふれあい、様々な価値観を知る
- ◇一方的な「してあげる」は支援ではない。
- ◇海外に友だちをつくって世界への理解を深める。



6月には、オリンピックマラソンのメダリストでありHGの代表理事の有森裕子さんが講演に来てくださいました。

有森さんはまず、「夢や目標はかなうと信じれば絶対実現できる！」と、努力を支える気持ちの大切さについて熱く語ってくださいました。
また、「たくさんの国や人々とふれあい、様々な価値観を知ってほしい。
そして、今までにない考え方ができるように、共に学び、いろいろなことができるようになりたい」ともおっしゃっていました。

そして、「支援活動については、私もカンボジアの人に元気をもらっている。「一方的な」してあげる」は支援ではない。「海外に友だちを作って世界への理解を深めてほしい」と呼びかけられました。

私たちは有森さんから、国際社会を舞台に、自分たちの生き方や幸せをさがしながら、自分も周りも一緒に輝いて生きていくことのすばらしさを学びました。

「第一回交流活動 その①」

第三藤田小学校から♪

◎日本の教科、学校行事の紹介 ◎グループごとの自己紹介

DVDの作成

◎私たちのことを詳しく知ってもらいたい

プロフィール帳の作成

◎さらに幸せになってほしい

お守りの作成



カンボジアの人たちと仲良くなりたいたいと思った私たちは、6月にニューチャイルドケアセンター(※以下NCCC)と第一回交流活動をしました。

HGの方のお話から、カンボジアは学校行事が少なかつたり日本と教科が違っていたりすることを知りました。

そこで、日本の教科や学校行事について紹介することにしました。

グループごとに簡単な自己紹介もしました。

そしてこれらをDVDにまとめて見てもらうことにしました。

また、私たち一人ひとりのことをさらに詳しく知ってもらいたいと思い、プロフィール帳も作りました。

そして、これからさらに幸せになっほいという願いを込めて、家庭科の時間に折り鶴とメッセージを中に入れた手製のお守りを作り、それらをNCCCに届けてもらいました。

「第一回交流活動 その②」

ニューチャイルドケアセンターから♪

◎ココヤシの葉で作ったキーホルダー

◎イラスト入りのプロフィール帳

ていねいに編んで作ってある!

イラストが上手!

日本語で漢字まで使っている!!

みんな真剣に日本語を勉強している

するとNCCCから、ココヤシの葉で作ったキーホルダーとイラスト入りのプロフィール帳が届きました。

一つ一つ丁寧に編んで作られたキーホルダーはとてすてきでした。

また、プロフィール帳に描かれた上手なイラストに感動しました。

そして、自己紹介が、日本語で漢字まで使って書かれていて驚きました。

☆みんな真剣に日本語を勉強しているなあと感心しました。

カンボジアの子どもたちは勉強が大好きで、生活や将来のために必死に取り組んでいるという様子がよくわかりました。

「学級討論会(ディベート)
カンボジアに支援活動は必要か?!

国語科の単元「学級討論会をしよう」

カンボジアに支援活動は必要だ

◎カンボジアの立場だったら支援してほしい
◎人と人との助け合いは大切な

支援活動について
あらためて考える
きっかけに

「なぜ支援活動をするのか?」
「どんな支援活動をするのか?」
支援活動を続けていく上での
進め方

7月には、国語科の「学級討論会」でディベートをしました。論題は「カンボジアに支援活動は必要か? 必要か? 不必要か?」です。

その中で「自分たちがカンボジアの立場だったら支援してほしい」「人と人との助け合いは大切」「少しでも地雷や病気の被害を少なくしたい」と考える人がたくさん出てきました。

そして最後に「カンボジアに支援活動は必要だ」という結論が出ました。

この学級討論会は、カンボジアの支援活動および国際交流についてあらためて考えるきっかけとなりました。

そしてこの討論会で出た意見は、私たちの「なぜ自分たちは支援活動をするのか?」「どんな支援活動をするのか?」という支援活動を続けていく上での道しるべとなりました。

これらことから「なぜ支援活動をするのか?」について一人ひとりが考えました。

その中で「自分たちがカンボジアの立場だったら支援してほしい」「人と人との助け合いは大切」「少しでも地雷や病気の被害を少なくしたい」と考える人がたくさん出てきました。

そして最後に「カンボジアに支援活動は必要だ」という結論が出ました。

この学級討論会は、カンボジアの支援活動および国際交流についてあらためて考えるきっかけとなりました。

そしてこの討論会で出た意見は、私たちの「なぜ自分たちは支援活動をするのか?」「どんな支援活動をするのか?」という支援活動を続けていく上での道しるべとなりました。

「ハチドリのひとつとしく
～今、私たちにできること～」

小さなハチドリのクリキンデー

大きな問題

あきらめない
行動に移す

◎自分のできる限りで
取り組みばいい

◎できることから
やってみよう

☆自分のできる限りの
国際交流

☆少しでも誰かの役に
立てば無駄ではない

9月の道徳の授業では「ハチドリのひとつとしく～今、私たちにできること～」を勉強しました。

その中で、大きすぎる問題に対しても、あきらめず「行動に移すクリキンデーの気持ちを想像することで「何とかしたい」という気持ちや「行動する」ということが大切であることに気づきました。

また「自分のできる限りの範囲で取り組みばいい」「できることからやってみよう」と思うようになりました。

そして、「自分のできる限りの範囲で国際交流を進めていきたい」「少しでも誰かの役に立っているのであれば、やっていることは決して無駄ではない」という思いをもつようになりました。

「第二回交流活動」
ウェブカメラを使ったNCCCとの交流 その①

第三藤田小学校から♪
◎岡山県の昔話や郷土料理
◎児童会の行事や授業の様子



ニューイヤードケアセンターから♪
◎歌と踊り♪

日本語で歌う
歌に感動！
自分も見習いたい

それが
カンボジアの
発展にも
つながる

また9月にはウェブカメラを使って、NCCCとの交流活動第二弾を実施しました。声と映像で話をして、お互いを知り合い、さらに仲良くなって交流を深めることができました。

交流会では、まず第三藤田小学校から岡山県の昔話や郷土料理などを紹介しました。

児童会活動の行事や授業の様子なども紹介しました。


NCCC側からは歌と踊りを披露してもらいました。

上手な踊りと日本語で歌う歌に感動しました。

交流活動の中で、NCCCの人はとても勉強熱心で自分も見習いたいと思いました。それがカンボジアの発展にもつながるのだなと思いました。

「第二回交流活動」
ウェブカメラを使ったNCCCとの交流 その②

◇NCCCの人の幸せ
◇雨漏りのしない家
◇ご飯が食べられること



◎私たちにどって当たり前
◇争いのない国は幸せ
◇カンボジアの辛い歴史

第二回交流活動を振り返って

◎これからもっと交流をしたい ◎実際に会ってみたい
◎もっと理解していきたい
◎クメール語を勉強して交流したい

NCCCの人の感じる幸せが、雨漏りのしない家に住むことやご飯が食べられることと聞いて驚きました。

私たちが当たり前だと思っていることを幸せと感じていることに気づきました。また、カンボジアの辛い歴史を話してもらい、争いがない国は本当に幸せな国なのだということがわかりました。

そして、自分たちの国が他の国の人たちにとつてうらやましいと思われている、そんな日本も大切にしていきたいと思えます。

最後はお互い元気に「バイバイ」のあいさつをしました。

とても明るく親しみのこもったあいさつができました。

今回の交流会によって少しずつ打ち解け合い仲良くなることができただと思います。

第二回交流活動の振り返りでは、「これからもっと交流をしたい」「実際に会ってみたい」「NCCC(カンボジア)の人のことをもっと理解していきたい」「次は、私たちがクメール語を勉強して交流をしたい」という意見がでました。

「第一回支援活動 その①」

◇8月の募金活動
支援活動の大変さや
充実感を感じた。



◇9月の物資支援活動
衛生的な生活を送るために
必要なタオル・石けん、歯
ブラシと募金を集めた。




六区保高 第一前田小学校
 第二前田小学校 藤田中学校
 にも協力していただきました

9月は、交流活動と並行して物資支援活動も進めてきました。その前に、8月の夏祭りでは、募金活動をしました。自分たちで実際に募金箱を持って立ち募金活動を行いました。募金してもらえらるようお願いをしたり募金してくれた人にお礼を言ったりすること、支援活動をするこの大変さや充実感も感じました。5月にHGの方から、日本ではありふれているタオル、石けん、歯ブラシがカンボジアでは不足しているということを聞きました。

そこで物資支援活動第一弾では、衛生的な生活をおくってもらうために必要なタオル、歯ブラシ、石けんを集めて送ることにしました。そして、それらを寄付していただけるように、チラシやポスターなどを作りみんなに呼びかけました。活動期間中は学校のあちこちに回収ボックスをおいて、朝は各学年に募金を集めるにもまわりました。さらに、第一藤田小学校、第二藤田小学校、藤田中学校、六区保育園など藤田中学校区全体にも協力を呼びかけました。みなさん快く応じていただき、物資支援に取り組んでくださいました。

「第一回支援活動 その②」

◎たくさんの人に協力してもらえてうれしい
◎たくさんの方の協力を得て支援することができ
◎一人の力は小さくても協力して取り組みれば大きな力に
☆集まった支援物資
石けん ……325個
タオル ……513枚
歯ブラシ ……378本
募金 ……35,579円



◎集まった物を使ってもらいたい
◎役に立てたうれしい

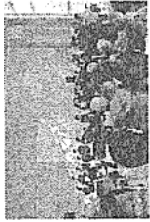
きっと喜んでもらえる
 ことはないだろうか？

地域で集まったたくさんの方の物資を見て、こんなにたくさんの方が協力してくれたのだと嬉しい気持ちでいっぱいになりました。私たちのような子どもでも、いろいろな人の協力を得て、たくさんの方を支援することができるのだと学びました。そして、たとえ一人の力は小さな力でも、たくさんの方と協力して取り組みれば大きな力になって、いろいろなことができるようになるのだなと思いました。もっとカンボジアのことを知り、交流を深めていくことで活動を広げていきたいと思

今回の活動で、石けん325個・タオル513枚・歯ブラシ378本、募金は夏祭りと合わせて35,579円集まりました。有森裕子さんが代表を務めるHGを通じて、11月末にカンボジアに送らせていただきました。私たちはこの活動の振り返りをしました。第一回目の支援活動を終えて、私たちはこの活動の振り返りをしました。「集まったものをカンボジアの人たちに使ってもらいたい」「カンボジアの人たちの役に立ててもらいたい」などの意見がたくさん出ました。私たちの小さな力でも喜んでもらえる活動ができたことで、「もっとカンボジアの人に喜んでもらえることはないだろうか」と考えました。

「ESD世界会議サイドイベント」

今年度の活動はもちろん
これまでの活動も交えて発表！



- ◎ 私たちの思いを伝えるー「国際交流」
- ◎ 私たちの活動は世界の人々に認められた♪
- ◎ カンボジアがすごく大変なことに気づいてくれたら！
- ◎ 外国の方にたくさん意見をいただくことができた

11月7日ESD世界会議のサイドイベントに参加しました。
きれいなアトリウムでの発表では、観客席にたくさんの方々がいらしゃって、とても緊張しました。
私たちの思いを言葉で伝えることで、国際交流につながったのではないかと思います。
発表を終えてたくさん拍手をいただいた時、私たちの活動は世界の人々に認められたのだなと思いました。
私たちの発表で、カンボジアがすごく大変なことにたくさんの方が気づいてくれたらいいなと思います。
外国の方からたくさん意見をいただくこともできてとても嬉しかったです。
この貴重な経験をこれからの活動にも活かしていきたいと思えます。

「第2回支援活動 その①」

カンボジアの人に喜んでもらえる活動を
自分たちで考えて実践しよう

◎自分たちが考えた活動

鉛筆・青ボールペン・ノート・消しゴム・傘
軍手・くつ・帽子・ボール・バドミントン など



ハートオブゴート
東南アジア事務所
チェトラ先生に相談




◎チェトラ先生の話をもとに
もう一度支援活動を考える！

まず、第一回の支援活動をもとに第二回目の支援活動を計画しました。
二回目の支援活動では、カンボジアの人に喜んでもらえる活動を自分たちで考えて実践していきます。
そのために、私たちは、まず自分たちでカンボジアの人に喜んでもらえる活動内容をしっかりと話し合っって考えました。
鉛筆・青ボールペン・ノート・消しゴム・傘・軍手・くつ・帽子・ボール・バドミントン など贈ることが候補に挙がりました。
そこで、自分たちが考えた活動がカンボジアの人に喜んでもらえるかどうか、ハートオブゴート東南アジア事務所・体育科教育普及事業プロジェクトリーダーのチェトラ先生にウェブカメラを使って相談しました。
そして、チェトラ先生に相談をした後、もう一度クラスで話し合いをしました。

「第二回支援活動 その②」

みなさんからいただいた募金で
カンボジアでマットを作って贈ろう♪



誰かの役に立ったり
喜んでもらえたりする



自分たちも
笑顔になれる

- ①日本で買うと高い
- ②カンボジアも儲かる
- ③今まで贈ったことがない
- ④みんなでも活用できる

話し合いの結果、みなさんからいただいた募金でカンボジアでマットを作って贈ってもらうことにしました。

その理由は、

- ①日本でマットを買うと高く、輸送費も高くつく
- ②カンボジアで材料を買ってマットを作るとカンボジアも儲かる
- ③せっかく贈るなら、今まで贈ったことのないものもいい。マットは今まで贈ったことがない
- ④マットは一人だけでなくみんなでも活用できる

など、カンボジアの現状やチャエトラ先生とのお話を参考にして、満足のいく第二回物資支援ができました。

私たちは、二度の支援活動を経験して、「誰かの役に立ったり喜んでもらえたりすることで、自分たちも嬉しい気持ちになるのだ」と思いました。

「ハートオブゴールドの方のお話②」

©2014年度物資支援の使われ方




☆アンコールウォーキングの参加賞に♪

©カンボジアからの留学生の話

目標！夢！！

家族のために給料が使える♪

幸せ

前だけ向いて努力していく！

2月にハートオブゴールドの事務局長さんが、再びゲストティーチャーとして第三藤田小学校に来てくださいました。

まず始めに、9月に集めた支援物資がどうなったのかについて教えていただきました。

今回は、「アンコールウォーキング」の参加賞として使っていただけだそうです。実際に使っていたにしている様子を知ることができて、今後も物資支援を続けていきたいという気持ちになりました。

さらに、カンボジアの体育の授業の様子も教えていただきました。

教材がなく、手作りの跳び箱やマットで器械体操をしていました。

私たちの募金で新しいマットを作ってもらい、活用していただけたことが楽しみです。

また、二人のカンボジアからの留学生の話も聞かせていただきました。

やろうと思って決心し、目標のため夢のため、前だけ向いて努力していく姿勢や、「家族のために給料が使える☆ようになっただけが幸せ」という幸せの考え方に感動しました。

「これからも継続していく国際交流」

2012年度から継続している
カンボジアとの交流活動や支援活動

2014年度は私たちが実践！
次の6年生も継続して行ってほしい

私たちがやる → 私たちの交流活動支援活動 → 私たちにできる

これからも継続して実践

第三藤田小学校6年生は、以前からHGと協力してカンボジアの支援活動や交流活動を行っています。
わたしたちも今、これらを引き継いで取り組んでいます。
そして、また次の6年生にも引き継いで行ってほしいと思います。
私たちの、私たちにやる、私たちにできる支援活動や交流活動をこれからも実践し継続していきたいと思えます。

「幸せって何？」
～What is happiness?～

☆自分の、自分たちの幸せについて考える

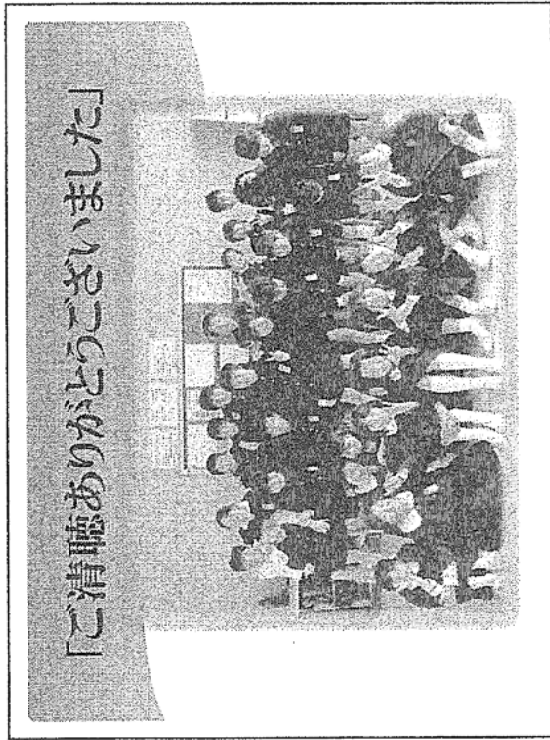
人々によって「幸せ」は同じだったり違ってたりする

人とのつながりのありがたさ、喜び

「幸せ」

私たちが考える

最後に、「幸せって何？」のテーマに立ち返り、自分の、自分たちの幸せについて考えていきます。
これまでの学習で、人や国によって、幸せと感ずることが同じだったり違っていたりすることがわかってきました。
また、人とのつながりのありがたさや喜びも実感しました。
これからも☆支援活動や交流活動を継続し、自分たちの思いや考えを広げたり深めたりして、私たちが考える「幸せ」を見つけていきたいと思えます。



以上、第三藤田小学校の発表でした。
たくさんの方に私たちの発表を聞いていただき、私たちは幸せです。
ご清聴、ありがとうございました。

全国大会テーマ別交流会 分科会発表

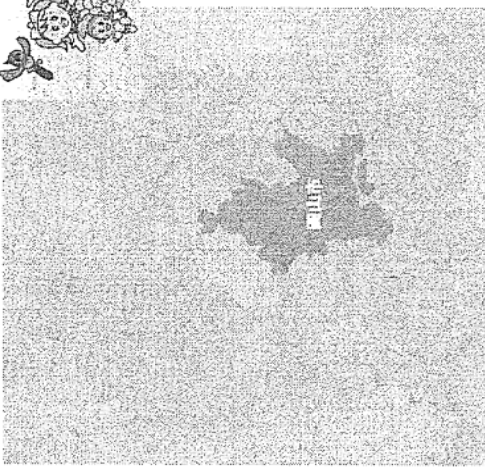
ユネスコスクール全国大会 第10分科会

研究主題


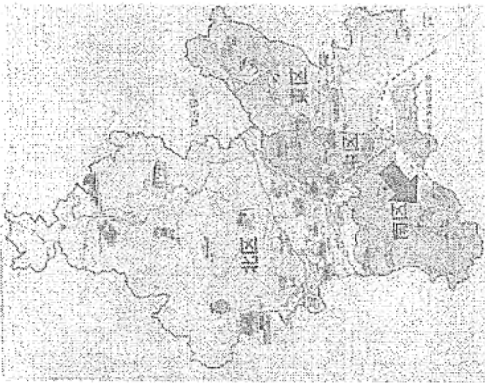
人・社会・自然など自分とつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～



岡山市立第三藤田小学校



山口市

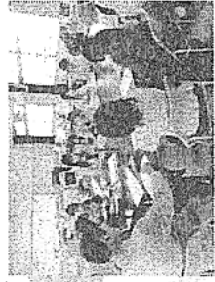



1 主題設定の理由

(1) 藤田地区ESDの歴史

藤田地区コミュニティスクール スローガン
「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」

中学校区研究テーマ
つながり・感じ・高め「子」の育成をめざして

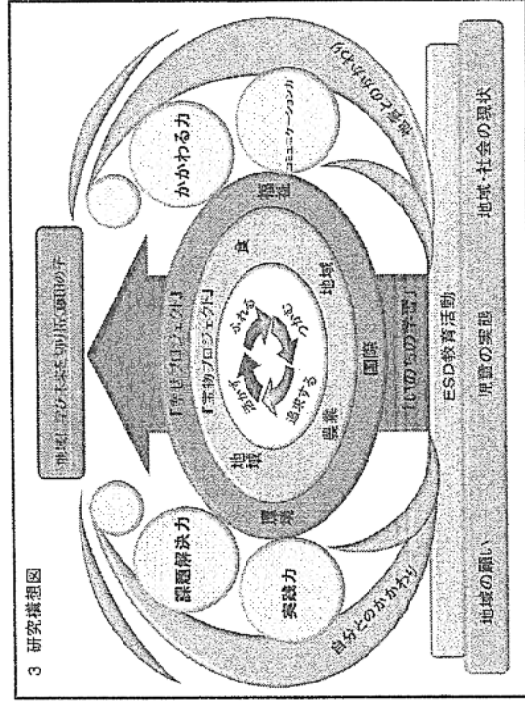
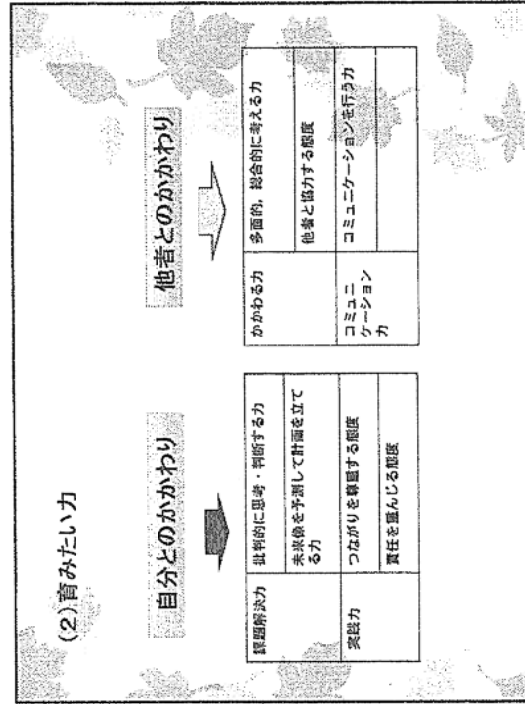
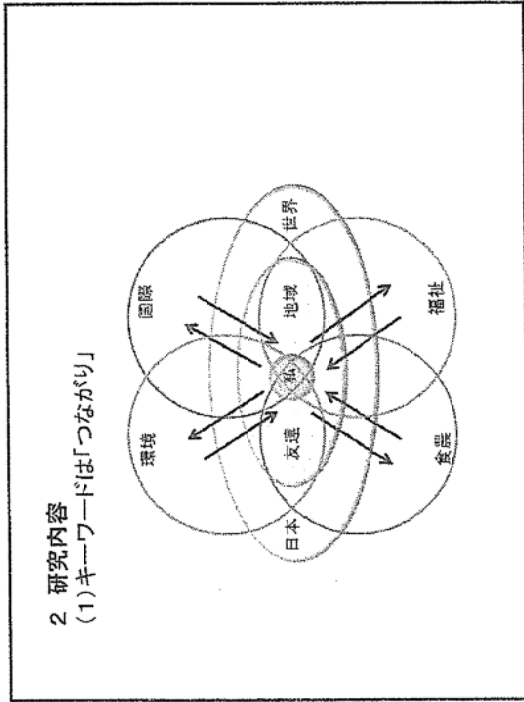
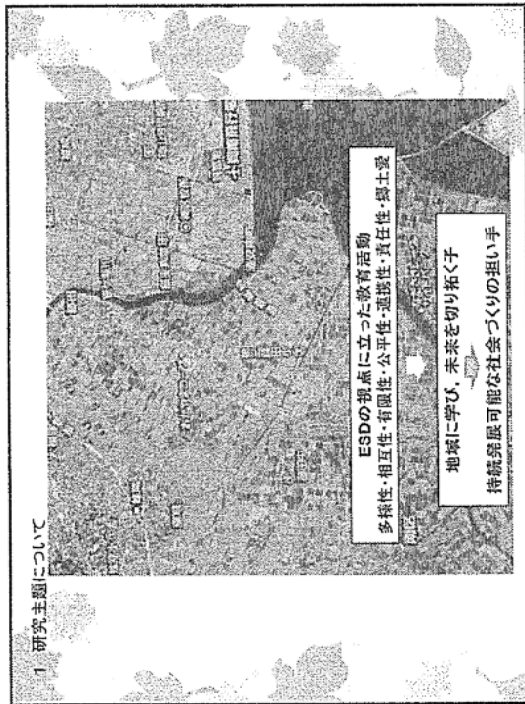


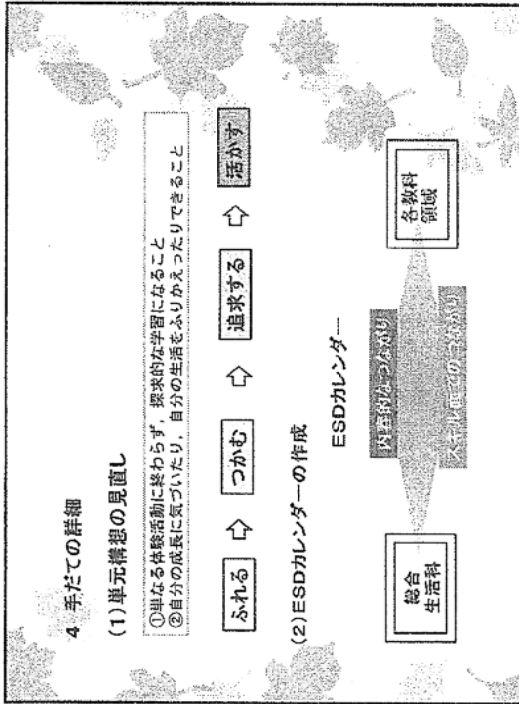
ESD研究会



○藤田地区ESD地域連絡会

ESD実践発表会

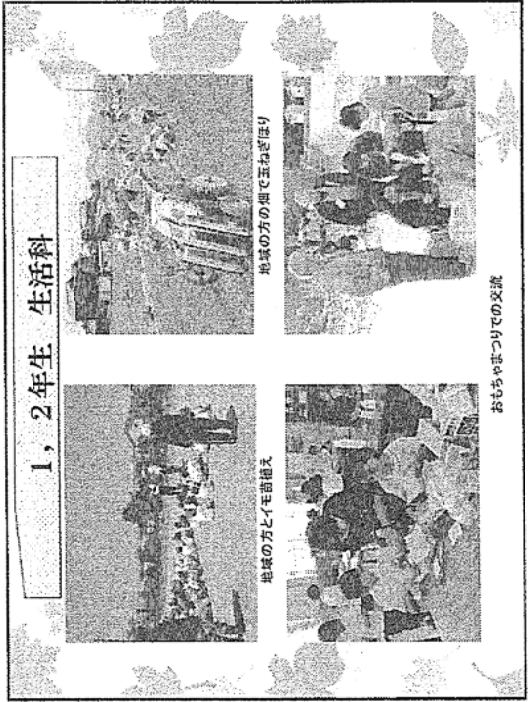
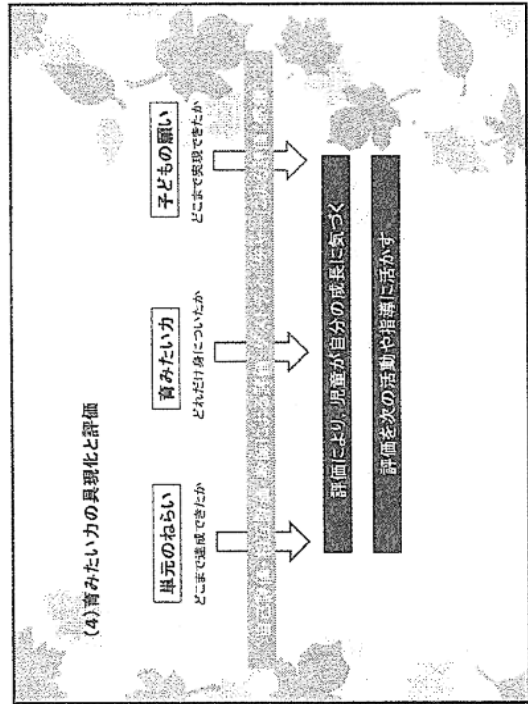
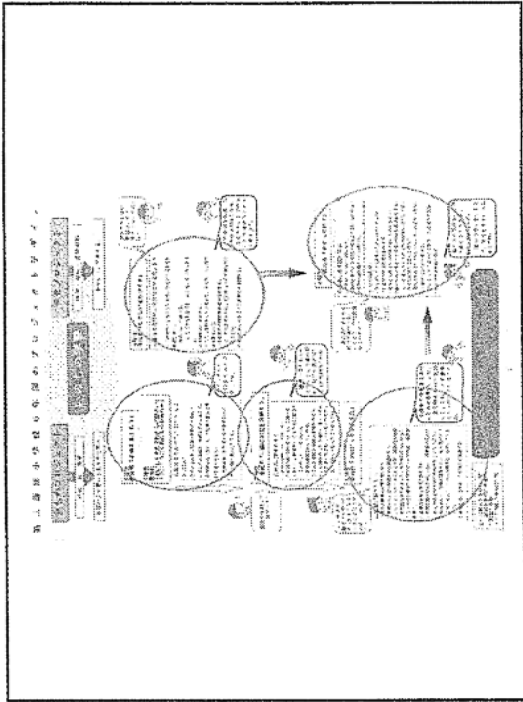
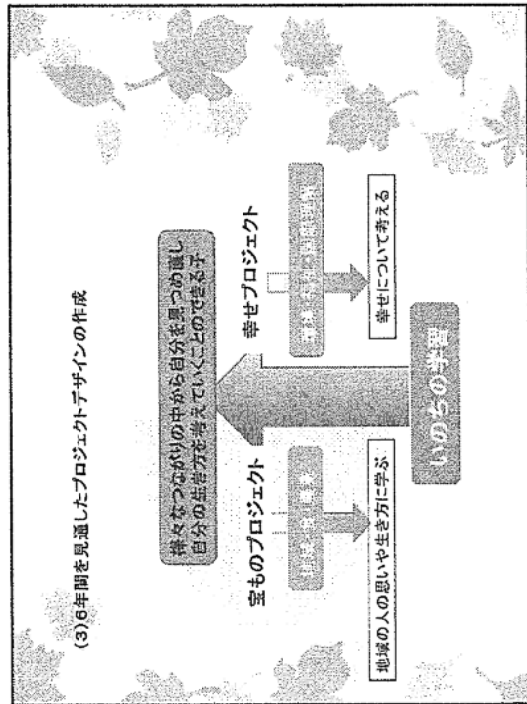




単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
単元名	...											
単元目標	...											
単元計画	...											
単元評価	...											
単元振り返り	...											

技能面	関連内容
① インタビューの仕方	
② 報告書の書き方	
③ インターネットで調べるときの注意	
④ グラフや表の引用の仕方	
⑤ 割合の求め方 それを使ったグラフの書き方	
⑥ ご飯の炊き方	
⑦ 提案書の書き方	
⑧ 平均の求め方	

内容・心情面	関連内容
A	植物の発芽と成長に必要なもの
B	現在の米作りの問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫
C	それそれぞれの土地にあった農業やくらし方の工夫
D	案ができるしくみ
E	水産業における問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫を米作りと比べる
F	食料生産をよりよくするためのさまざまな取り組みや、今後の問題点
G	お米のもつよさや日本食のよさ
H	先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち
I	お米の栄養について
J	先人の努力を知り、郷土を愛する気持ち



3年生 「三藤のお宝をさがそう」



産田で作られている豆畑やみその試食



JA女性部の活動についてインタビュー



地域の農家の見学やインタビュー



お米の食べ比べ

5年生 「藤田に農業は必要か？」



〇必要

- ・おいしいやんやおぼあちゃんが守ってきたから。
- ・米作りのための干拓地だから。
- ・食料がなくなるから。
- ・田んぼの自然が好きだから。
- △必要ない
- ・田んぼより店がたくさんある方がいい。
- ・他の県でつくったものを買えばいい。

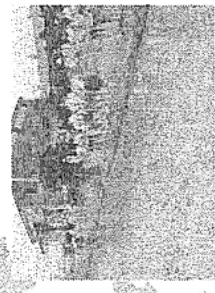
△よい点

- ・たくさん収穫できるとうれい。
- ・「おいしい」と言われるとうれい。
- ・達成感がある。
- ・成長が楽しみ。
- ・自分で作ると安全でおいしい。

△問題点

- ・後継者がいない。
- ・もつからない。お米の値段が高い。
- ・機械にお金がかかる。
- ・減反でたくさん作れない。
- ・外国から安いお米が入ってくる。

20年先の藤田の米作りがどうなっているといだろう？



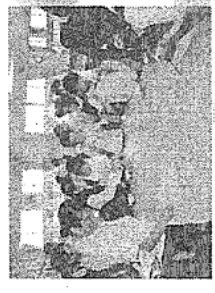
アヒル・アイガモ農法の見学



バケツ稲による実験



フィールドワーク



お米の食べ比べ

食卓の囲みで、お米について話そう！

提案

和食のバリエーションを増やそう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！

和食のバリエーションを増やそう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！
お米をたくさん食べて、お米の味を楽しもう！

和食のバリエーションを増やそう！

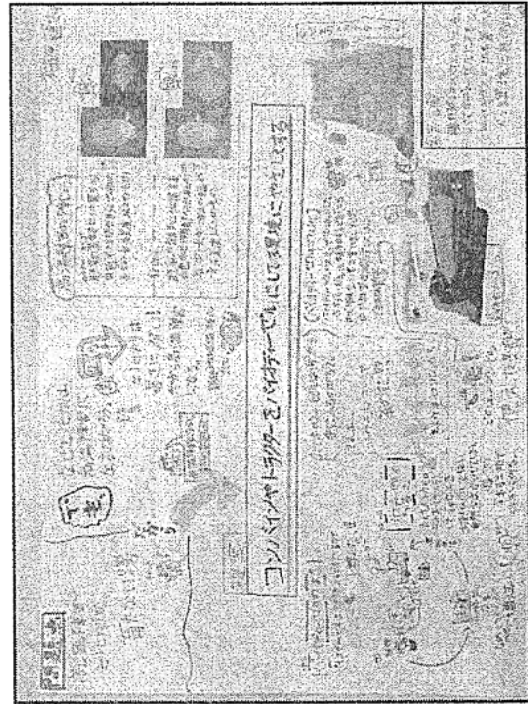
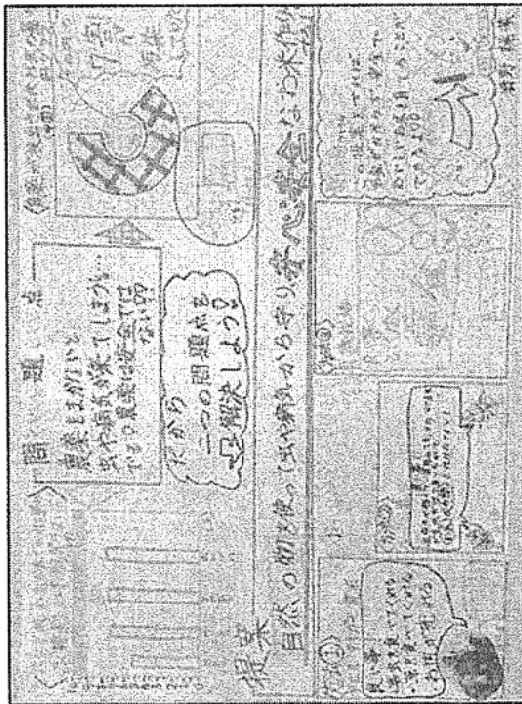
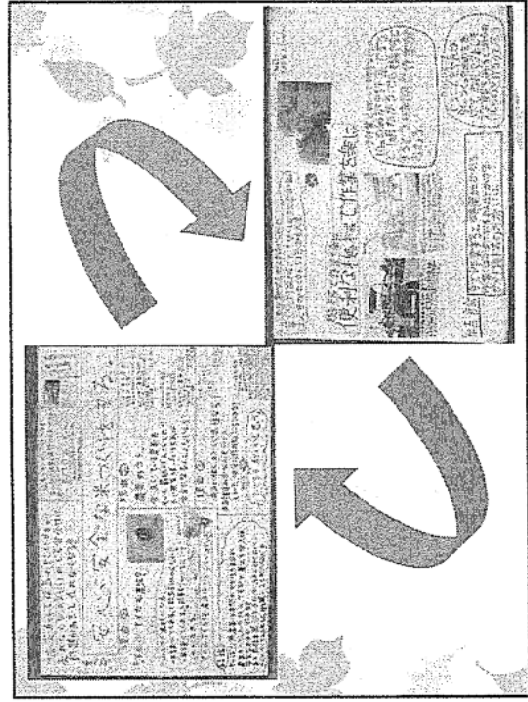
お米のよさ

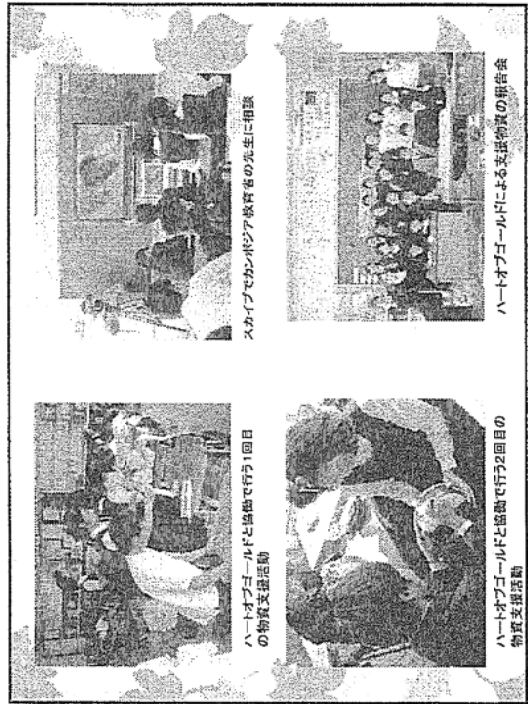
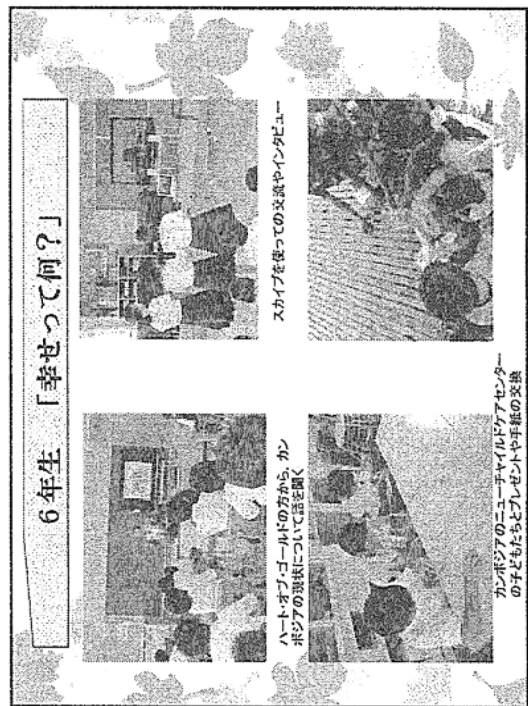
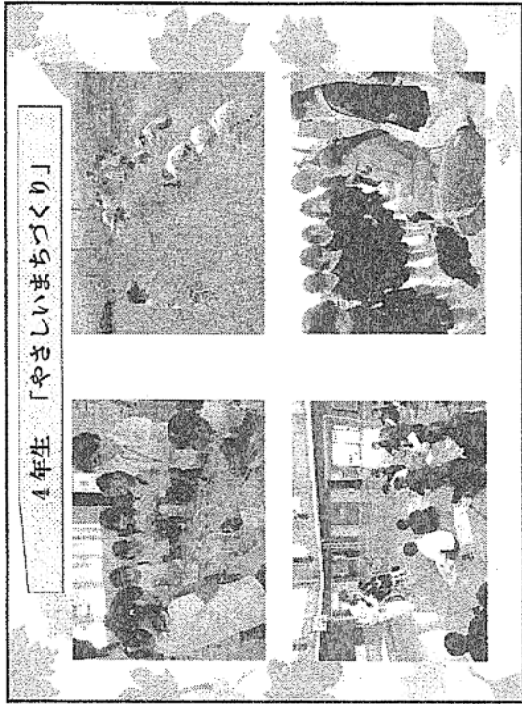
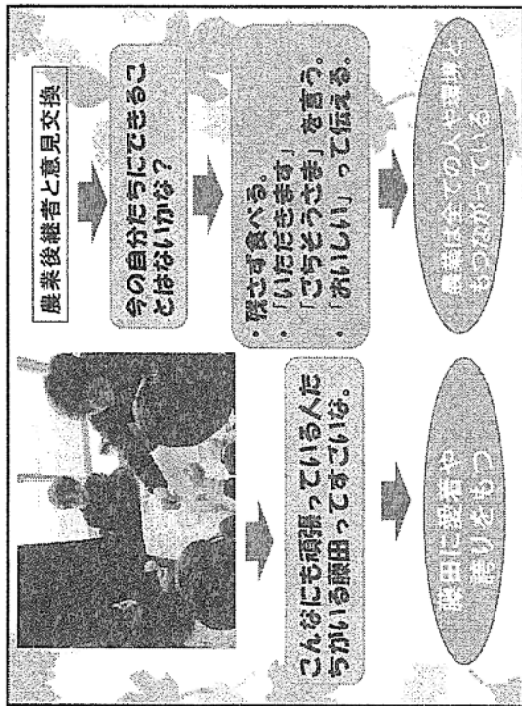
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！

結論

結論
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！
お米のよさ
たんまりと炊きあがり、お米の味を楽しもう！

お米のよさ





成果と課題

○系統立てて行ってきた指導が、少しずつ子どもたちに根付いてきた。自分の地域を見直したり、違い存在だと思っていた問題を身近に感じたりする中で、自分の生活をふり返ったり、今の自分のできることを考えたりすることができるようになってきた。

○中学校区で共通の児童像を設定し、共通理解しながら研究を進めているので、縦の系統と横の連携を意識した学習ができていく。

○中学校区どの学校の学校も、地域に学び、その成果を実践発表会という形で地域の方々に発信している。そのため地域の方々から学校の取組を理解した上で協力し、共に子どもたちを育てていくという気持ちが高まりつつある。また、「このよう子どもたちを育てていきたい」という地域の思いも聞かれるようになってきた。

成果と課題

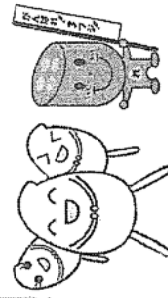
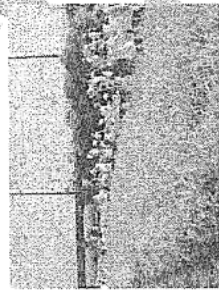
●ESDカレンダーを作成し、他教科との関連を意識して進めているが、各教科で培うべき力がまだまだ不十分であり、活用するまでには至っていない。各教科指導についても研究をしていく必要がある。

●学習した時には、自分の生活を振り返ったり、自分達にできることを考えて意欲的に実践したりすることができているが、それが生活の中に浸透し、持続していくのは難しい。

おわりに



鳥山町イメージキャラクター ミコロ・ハコロ



第三藤田小ゆるキャラ

平成26年度 校園内研究のまとめ

校 園 名 岡 山 市 立 第 三 藤 田 小 学 校
校 園 長 名 矢 吹 憲 策
研 究 主 任 名 板 倉 真 由 美

(学校園の研究主題)

「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」
～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～

1 研究の内容

本校は「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」という研究テーマのもと、E S Dの視点に立った学習指導の研究に取り組んで4年目になる。

本年度は、生活科及び食に関する指導の研究発表もあり、教科・領域とのクロスカリキュラムを中心に校内研究に取り組んだ。

○クロスカリキュラムによる授業研究

E S Dの視点に立った授業作りをし、授業公開をして研究を深めた。

10月 校内研修 第2学年「うごくうごくわたしのおもちゃ」

11月 岡山県小学校教育研究会生活科部会 第1学年「いっしょにあそぼう」

校内研修に、生活科研究部の先生方にも参加していただき、指導案検討を行った。当日は、授業公開後小グループに分かれ、単元構想や本時における手立ての工夫について、研究協議を行った。その後、岡山市立江西小学校校長鳥居先生より、指導講評をいただいた。

6月 校内研修 第5学年 総合的な学習の時間「プロジェクト八十八」

1月 岡山市小学校教育研究会 健康教育給食部 南区研究会
第3学年 総合的な学習の時間「三藤のお宝をさがそう」

「食の大切さを知り、自分の生活にいかそうとする」という研究テーマをE S Dの視点に立って捉え、総合的な学習の時間と食育のクロスカリキュラムで 授業作りを行った。

当日は授業公開後グループ協議を行うと共に、庄内小学校岸本先生にお話をしていただき、食育についての研修を深めた。

9月 校内研修 第6学年 道徳「ハチドリのひとつく」

2月 校内研修 第5学年 国語「すいせんします」

どちらも、総合的な学習の時間とつながる単元で、E S Dカレンダーを活用した授業研究を行った。



○E S D・ユネスコスクール全国大会参加

11月に開催されたユネスコスクール全校大会の分科会で実践発表を行った。日本各地の参加者と、「本校のE S D活動がよりよくなるにはどうすればよいか」というテーマで意見交換をすることができた。

また、世界会議サイドイベントには5、6年生の児童が参加し、E S D活動についての発表を行い、世界に向けて成果を発信することができた。

○中学校区合同研修会

中学校区で小中連携を図るため、授業公開を伴う合同研修会を行った。今年度は第一藤田小学校と藤田中学校が授業公開をし、全職員が参観した。その後グループに分かれて研究協議を行ったり、各校の取組についての情報交換をしたりした。

○研究のまとめの作成

1年間の実践及び成果と課題を冊子にまとめ、来年度活用できるようにする。

2 研究の成果と課題

- ESDの視点に立ち、他の教科・領域とのクロスカリキュラムを意識した指導案作りに取り組んだ。全職員ですべての指導案について検討する事ができたので、ESDカレンダーの活用やクロスカリキュラム等について具体的に研究を深めることができた。また、改めて「ESDの視点に立った学習指導」についても確認することができた。
- 各学年の総合的な学習の時間については、この研究が4年目になり、これまでの積み重ねが定着してきている。さらに、毎年少しずつ改善され、児童の意識が、ねらいに近づいてきている。
- 「生活科」と「食に関する指導」この2つの研究会を行ったことで、校内の教職員だけでなく、他校の教員や学校栄養職員などの方々と意見交換をする機会をもつことができた。生活科や食に関する指導の研究をされている方々のお話も聞くことができ、研究を深めることができた。
- ESD世界会議サイドイベントに参加したことで、同じユネスコスクールのような取組について学ぶ機会をもつことができた。また、全国大会の分科会で日本各地の様々な立場の方から、多様な視点で本校の取組についての意見をいただいたことで、来年度に向けての課題が見つかった。
- 中学校区の全教員で同じ授業を参観して研究協議を行う貴重な機会をもつことができた。小中学校の教員が互いに授業を見合い、意見交換をすることで、小中で連携していくためにはどんなことが必要かなどの課題が見つかった。



- 生活科研究会、食育研究会、ESD世界会議及び全国大会と、大きな研究発表が重なったため、せつかく研究・公開した一つの授業について十分に検討し、深めることができなかつた。研究組織を整え、見直しをもって進めることができるように計画を立てていきたい。
- 各教科で培うべき力が十分についていないため、総合的な学習の時間に活用することが難しい。ESDカレンダーを見直し十分に活用することで、クロスカリキュラムによる授業を充実させ、各教科・領域で培うべき力をつけるための研究を進めていきたい。
- これまでの研究は、どちらかと言えば「総合的な学習の時間」に重点を置いたものになり、職員全員の研究になりにくかつた。来年度は、研究をもっと焦点化し、全員で足並みをそろえて取り組めるようにしていきたい。
- 中学校区でめざす子ども像を設定し、研究を行ってきたが、それぞれの学校での新たな課題が見えてきたため、足並みが揃わなくなつてきている。今後の研究に向け、中学校区の児童・生徒の実態を改めて洗い出し、めざす子ども像やつきたい力などを見直し、研究の方向性を話し合い、共通理解する必要がある。

おわりに

「人・社会・自然などとの自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」というテーマのもと日々研鑽を重ねた本校の研究も今年で4年目を迎えました。

本校の研究の根幹は、E S Dの6つの視点である、①多様性 ②相互性 ③有限性 ④公平性 ⑤連携性 ⑥責任性に、⑦郷土愛を加えた7つの視点に立脚して、地域・食・農業の学習を通して、自分の生き方を振り返るとともに、環境・福祉・国際理解について自ら進んで学ぶ中で、自分にできることは何かを一人一人の子どもたちに考えさせることにあります。

また、今年度は、11月のE S Dに関する世界会議サイドイベントへの5・6年生児童の参加・発表、生活科及び食に関する指導の研究発表など、重要な会議や研究会において本校の研究テーマにもとづく実践を国内外の多くの皆様に情報発信することができました。このような貴重な機会をいただいたことは、本校の研究実践を進める上で大きな前進であったとらえています。

私たちは、この研究集録に示された研究理論をもとに、第三藤田小学校の児童一人一人が、藤田という地域（ふるさと）を愛し、藤田から日本、さらには世界へ向けて課題追求に主体的に関わっていくことができるようにさらに研究を深化させることが重要であると考えます。そして、自分自身の生き方を振り返りながら、自分の周囲に存在する様々な課題や問題から目をそらすことなく、世界の人々とともに力を合わせて自らの世界を切り拓くことのできる児童の育成に今後とも力を注いでいくことの大切さを改めて実感しています。

そのためにも、校内研修のより一層の充実を図るとともに、教師一人一人が英知を結集して授業力の向上に努め、日々自己研鑽を重ねていかなければならないと思います。

今後とも皆様のご指導並びにご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月

岡山市立第三藤田小学校

教頭 石田 容一

研究同人

矢吹 憲策	石田 容一	板倉 真由美	小野 道子
山本 龍太郎	松本 容子	定金 歩美	菅井 憲人
黒石 浩史	土佐 九二男	加治 紀江	平松 つばさ
尾島 朋子	小野 綾子	十河 恵子	平本 幸恵
大原 順子	瀧川 伸一	藤原 純子	森山 純子
石井 和恵	小田 泰子	田尾 由美子	



+
Education for
Sustainable
Development

